

お知らせ

一月例会

- ・期日 立教181年1月25日
- ・時間 15時30分受付 16時開始
- ・場所 教庁4階講堂

学生層育成者講習会

日程・会場案内

- 【教区】
- ・京都 1月14日13時〜 教務支庁
- 【直属】
- ・此花 1月24日13時〜 詰所

報告

十一月例会

去る11月25日、第二食堂に於いて「十一月例会」を開催。出席は43教区、161直属。

各地の動き

- 【教区学生層育成者講習会】
- ・北海道 11月4日 教務支庁 20名
飯降好助委員出向
- 【直属学生層育成者講習会】
- ・嶽東 11月20日 大教会 273名
中山昭悦委員出向

- ・上之郷 11月21日 大教会 105名
秋岡副委員長出向
- ・白羽 11月23日 大教会 100名
飯降好助委員出向
- ・淀 11月23日 分教会 100名
中山昭悦委員出向
- ・伊野 11月25日 詰所 60名
勝村委員出向

人事

【直属学生担当委員長辞令交付】

《立教180年11月25日付》

・阿波谷道男（治道・尼道）

業務記録

《立教180年11月16日〜12月15日》

- 11月16日 学生連絡会
- 18日 要員育成室つくし会秋期研修（〜19日）
- 20日 事務局連絡会
- 21日 『Happist』納品・発送
- 24日 研修会チーム会議
担当者活動部部会
出版部部会
学生担当者大会
委員会
- 25日 学生担当者大会
委員会
- 26日 広報室会議
育成に役立つ研修会
スタッフ直前研修会（〜28日）
- 27日 育成に役立つ研修会（〜28日）
現役幹事講話
- 12月1日 要員育成室つくし会
- 7日 まなびばチーム会議
- 11日 学修部部会
人材育成部部会
- 12日 学修高校の部研究室会議
学修高校卒業生コース
研究室会議
- 13日 委員会
学生連絡会
学生部部会
要員育成室会議
- 14日 委員会
ビデオチーム会議
春の学生おちばがえり
プロジェクト会議
- 15日 出版部部会

学生担当者報 Vol.370

発行／天理教学生担当委員会 発行責任者／松村孝吉 編集責任者／福江弘一
[TEL]0743-63-1511 (内線 5817) (直通) 0743-63-2489 [FAX] 0743-62-5780
[E-Mail] tsa@tenrikyo.or.jp [TSA website] http://tsa.tenrikyo.or.jp

立教180年
平成29年12月25日発行

立教百八十年 学生担当者大会における表統領 中田善亮先生ご講話 十一月二十五日・第二食堂



本日は学生担当者大会ということで、それぞれ日頃から学生さんに向き合ってくださいとある皆さん方がお集まりになっているということで、私の立場から思いますことをお話ししたいと思えます。まずもって日頃から、その立場を懸命におつとめいただいて本当にありがとうございます。誠にご苦労さまでございます。

皆さんはそれぞれ教区なり直属、あるいは様々な場面において、いつもその立場の上から人を育てる、また学生さんを育てる、ということについて考えておられることだと思います。それは本当に大切なことでありますし、学生という立場の人に限らず若い人を育てるといことは、時間がかかることだし、思い通りにはなかなか行かないということとは、よく理解されていることだと思います。また、それが皆さん方の大きな課題であろうかと思えます。一方で、例えば親であったり教会長さんの立場として、我が子やあるいは教会に繋がる若い人たちを育てていくということについては、これは小さな頃から、それこそ生まれてからずっと姿を見ながら、また成長を見ながら年月かけて、

その成長に比例して信仰的な成人も促しつつ、そして共に通って行くということを目指して、またそういうことを求めてこの育成活動ということに携わっていく。また、そういう育成なんて意識はなく、育てるという中に自然に信仰が入っていると、こういうようなことで、取り組んでいくのが親であったり、教会の立場であろうかと思えます。しかし、その一方で学担など、そういった預かる立場の上から、若い人たちを育てていくということにつきましては、学生さんであれば、その学生の顔ぶれは年と共に一つずつ年齢を重ねていき、一学年ずつ卒業していく、また入学して来る。次々と顔ぶれが変わっていくということになるわけでありませう。そういう意味では、親とか教会というのは若い人たちの人生をずっと見ながら育てていく。しかし、担当者ということになると、その中のある程度の年頃であったり年限を切られて、そこを対象にするということですから、非常に何かこう際限のないようなことを求められていくような部分もあるのではないかと思います。また、終了、つまり「かなり育ってくれたな」と、「成人してくれた」とその姿にありがたく思い、また、その彼らが次に人を育てるような立場になっていくなどということには、とても追いつかないことが多くて、そういう意味では終わることも完成することもあまり少ないというのが、この学生担当委員会とか学生さんを相手にされる皆さん方の活動の

ある意味での見方だと思います。

それは、一方で顔ぶれが変わるといえるのは私たちも同じ事で、学生さんにとってみれば、学生である三年間なり、四年間なりを、例えば同じ学生担当委員会の人たちが一緒にいくという場合もあるし、途中で任期が替わって、そして「私は学生の間に担当委員さんとはごろっと入れ替わったんだ」ということもあり得るわけで、顔ぶれが変わるといえるのは実は私たちの方も同じ事でありませう。これは少年会の育成ということに関しても同じ事が申せるかと思えますが、つまり、今、皆さん方が学生の担当をしておられるわけですが、その対象の学生さんも、また私たちもお互いに短い年限、たまたま向かい合う存在であるというようなことも言えるのではないかと、こう思うのです。そこで皆さん方も、また、ここにはもう既におられない学担などの立場を既に終えられた以前の担当の皆さん方も、教会系統であったり、地域活動の中での繋がりと、学生さんとの繋がりと、これは一生あるわけですから、どうかその時に関係ができた学生さん達には、良い意味で特別な思い入れというものがやっぱり芽生えてくると思いますので、それを大事にして、その担当する短い年限、年月をきっかけとして、是非、一生の付き合いのような、ある意味先輩後輩というか、学生が終われば、年の離れた教友というような関係を築くというか、維持するという

か、こういう気持ちの方が一方で大変なことではないかと思うのです。つまり、学生担当委員会の任期が終わったら私は終わりだと、次にまたご用をいただくからそっちの方が一生懸命で、もう学担の方に関わっている暇も、労力もないんだと。そうではなく、せめてその時に関係した皆さんとは、一生付き合っていくというくらい思いが大事なのではないかと思うのです。と申しますのも、今の若い人たち、昔からもそうなのかもしれませんが、若い人たちにとって信仰的な悩みや疑問を聞いてもらったり、あるいは相談ができる。時には一緒に活動ができる。また、間違っていたら正してくれたり、時には叱ってくれるようなそういう大人の存在がやっぱり必要なのです。その役割の本来の中心は、先ほど申しました親御さんであったり、教会長さんである。当然そうなのですけれども、しかし、一方でやはり直接の親であったり、教会長さんというのは、ちよつと言いが悪いけれども、目の上のたんこぶのような存在に感じる時がやっぱり若い時はあるものです。若い時にはやっぱり疎ましかつたりすることがあるわけです。教会長や親はやっぱり育ってもらおうと思う時に正論を述べますので、正論ほどこしんどいものはないという一面がありますから、やはりそこには遊びの部分とか隙間の部分というものが必要だと。そういう存在が、どこかに必要だと思わなくても、そういう存在というか関係を維持できるように

な、そんな将来も思い描きながら今の立場をおつとめいただければ、非常にありがたいのではないかと思うのです。

もう一点。ちよつと話を変えますけれども、お聞きいただきたいことは、これは私の勝手なイメージなのですが、以前は「人を育てる」、信仰的に人を育てていくという時に、特にこれは親御さんとか会長さんのイメージなのですが、言葉よりもむしろしっかりとした信仰信念と、そして教えを実行する背中、後ろ姿を見せていることが一番大事で、それさえしていれば子どもは自然に育ってくれるのだと。また、そうすることによって親神様にお育ていただく元を作って、そして、そのお力を借りて育てていただくのだと。こういうような考え方が厳然としてあったわけです。もちろんそれは現在も非常に大切なことで、そのことを否定をするつもりはまったくございません。大事なことであります。

しかしそれに加えて、言葉というものがやはり必要だということ。そしてもう一点は、相手の姿をちゃんと確認をしながら背中を見せるといふこと。つまり、自分が背中を見せてさえいけば云々ということになると、省略すると自分のことしか言っていない。見ている相手のことは一切考えていないということになるわけです。よく例えに挙げるのですけれども、会長さん、皆さんもそうでしょう。一生懸命学担のご用をはじめ、いろいろなご用に東奔西走して、頭を悩

学生担当者報

まして一生懸命頑張っている。しかし、皆さんの子ども達はその姿を見ているかというと、その背中が良いか悪いかではなくて、見てるかどうかという話なのです。子どもが小さい時には、親が教会でずっと一日教会活動をしている場合ならば良いかもしれないけれども、親が朝、教会を出ていく。それで一日つとめて夜帰る。朝出ていく時にはまだ寝ている。帰ったらもう寝ている。親を見ている暇なんかないのです。また、大きくなったってそうです。自分が一生懸命つとめてたつて子ども達は学校で自分たちの一生懸命をやっている。つまり、親の背中なんて見る暇も気もない。それを見せようとする。そこには工夫とか努力というものが一方では必要だと。あるいは声です。言葉、声かけというものが、やはり伝わらなければ、なかなか。それは夫婦で心を合わせて、お互いに声をかけ合うとかいろいろしながら、そういうことをしていかなければ、いかに立派な背中を見せようと、頑張っても、その意味では何にもならないということになってしまいかねないということ。これは私は、道の先輩達のことをどうこう言うつもりはまったくありません。しかし、そうやってこられた。頑張つて一生懸命通つて、そしてその立派な背中を見せる。見せようと本当に一生懸命通られたのです。ところがその結果、子ども達は育ったかということを考えてみると、やはり十分ではなかったという一面があるわけです。ならば、それを反

省点として、今の場合はそれを改めよというのではなしに、加えて言葉とか、その立派な背中を見せる工夫や努力ということを自分自身だけではなくて、お互いにそういうことをやっていかなければならない。即ち、相手をよく見るということです。これは何に関して、もそうだと思います。おたすけをするにあたっても、あるいは、に、い、が、け、を、す、る、に、あ、た、つ、て、も、何、を、す、る、に、も、相、手、を、よ、く、見、る、と、い、う、こ、と、が、と、て、も、大、事、な、こ、と、な、の、で、す、け、れ、ど、も、ど、う、も、私、た、ち、の、場、合、に、は、親、神、様、教、祖、と、い、う、ご、存、在、が、あ、り、ま、す、の、で、そ、の、ご、守、護、を、頂、戴、す、る。最終的には神様のご守護を頂いて、教祖の導きによって、お育ていただくということはあるわけですから、そこまでいっぺんに飛んでしまつて、どうも自分たちのやっていた行いに対する反省が足りなかったということがあるのではないかと、こう思っております。

代を重ねて、そして、い、い、ん、ん、を、果、た、し、て、い、い、ん、ん、を、切、つ、て、い、ただ、い、て、代、を、重、ね、て、未、代、ま、で、救、け、て、い、た、だ、こ、う、と、い、う、道、を、私、た、ち、は、通、つ、て、い、る、わ、け、で、す、か、ら、そ、の、と、こ、ろ、に、は、ま、だ、道、は、歴、史、が、浅、い、で、す、か、ら、私、た、ち、は、歴、史、を、重、ね、つ、つ、ま、た、経、験、も、重、ね、つ、つ、経、験、は、昔、の、た、め、に、あ、る、の、で、は、な、く、て、経、験、値、は、今、と、将、来、の、た、め、に、あ、る、わ、け、で、す、か、ら、先、輩、達、が、積、ん、で、き、て、く、だ、さ、つ、た、経、験、値、も、そ、れ、を、踏、ま、え、て、通、ら、せ、て、い、た、だ、く、私、た、ち、の、経、験、値、も、ま、た、次、へ、活、か、し、て、い、く、こ、と

ができれば、お互いが少しずつ成人を進めていくことができるのではないか。また、こうして若い人達を育てるという上でも違う局面を、お見せいただくことができているのではないかというような気がいたします。

若い人はなかなか難しいというのは昔も一緒だったと思います。昔は素直で今は素直じゃない、そんなことはないのです。その素直とか素直じゃないという種類はいろいろあるかもしれないかもしれませんけれども、昔から、その中をいろいろと通つてきてくださった先輩達の成果や、あるいは反省点を大いに活かして、直接に相對する学生さん達の成人に資していくということが、やはり担当者として大事な観点ではないかと思えます。この点を、私の考えですけれども、今日はお伝えさせていただきたいと思えました。

現在、おぢばでは後継者講習会が開催されておりまして、もう皆さん方はそのただ中で、一生懸命声かけに奔走していただいていることかと思えます。既に十二次、一万人を超える人たちが受講してくださった。この中にも受講された方もあるんじゃないかと思えます。しかしながら、こうして一万人とかそんなことを言いますと、非常に大きな行事で成果の上がるようなことのように思いがちですけれども、しかし、これも一人ひとりをよく見て考えてみれば、たった二泊三日のことなのです。どれほど感激しようが、どれほど考

え方に発見があったり、自分のプラスになったという思いに喜びがあつても、たった二泊三日のことなのです。帰つて二泊三日も経てば忘れてしまう。これが私たち人間の性でありますから、講習会はあくまでもきっかけであつて、そして、同時に「鉄は熱いうちに打て」と言われるように、冷めてしまえば、また頑なに戻つてしまいますので、この思いがある内に、なんらかの声かけというものを、一言二言の声かけを、是非とも細やかにお願いをいたしたいと思えます。

一方でもう一つ。これは布教部の方からしております「教会長子弟育成プロジェクト」というものを、直属教会を通して立ち上げていただいております。教会長の子ども。厳密に言えば、思いもしない中から親が教会長を請けて、急に教会長の子どもになつたという方もあります。細やかなことを申せば、いろいろな立場がおります。だと思います。しかし、ここでは単純に教会へ教会長の子どもとして生まれた。そこには、やはり私は親神様の思召があるに違いないと思う。その人を教会に生まれさせたという思召が必ずあるに違いないと思うのです。この人達をその親神様の思召に少しでも添えるような人生へ導いてあげることが、非常に大事なことだと思っております。全員、道専務に育てるといふようなつもりは更々ございませぬ。どんな立場であろうが、この場合は教会長後継者も働

学生担当者報

く、よう、ぼくも同じであります。どういう立場であろうがどこかの教会の役に立つ人に、教会になくてはならない人になっていただきたいと思うのです。これが進んでいけば、私はお道はもつと根本的な力が湧いてくるのではないかと思いますが、しかしながら、これも先ほどの話と同じで一朝夕にいく話ではありません。年限かけて、そして対象者はどんどん生まれてくるわけですから、しっかりとそれを続けていくということがなければならぬわけですから、そういう意識をしっかりと持つ。「どうして教会の子どもだからこうなんだ」じゃない。親神様の思召はそこに必ずあるということをお私たちの信念として、そして、教会にお嫁に行こうが未信者の方に嫁ごうが、あるいは独立して会社を立ち上げようが勤め人になろうが、どこかの教会で「あの人がいてくれるおかげで」と言われるような信仰を一生持ち続けてくれる。親が出直したらもう教会には足が向かないと、そういう信仰から一歩も二歩も進んだ信仰を伝えていかなければならないと思います。

いずれにいたしましても私たち自身も、そして対象となる学生さん達も、若い人たちが育つように、一生お互いに育つ努力をさせていただきます。若い人たちが育てるといことは、もう皆さんが十分了解しておられるように、今のお道にとっては本当に最重要課題のひとつであ

ります。これが先細っていけば、極端に言えばお道を信仰する者は無くなるのです。若い人たちがしっかり育っていつてくれれば、お道は将来へ向けて、私たちの通り方、また若い人たちの今後の通り方次第で、どのようにでもご守護いただくことができるかもしれませんが、伝わらなければ無くなってしまふ。これははっきりとしたことですので、そういったことをも今、私たちの励みとして、危機感ではなく励みとして持たせていただかなければならないと思っております。

それにつきましても、今、現場で一生懸命頑張ってくださいという皆さん方のお力が必要であります。これなしに、私一人が声を張り上げたってどうにもならない話でございます。どうか若い人たちと一生の付き合いの心意気で、そして今の取り組みを少しずつ継続、発展させながら、一人ひとりの対象者に対して、成果のご守護が見せただけのように、ご苦心を引き続いてお願い申し上げます。そのことを重ねてお願いを申しまして、終わらせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(文責 松村孝吉)



立教百八十年 学生担当者大会における松村委員長挨拶 十一月二十五日・第二食堂

本日はお忙しい中、学生担当者大会へ大勢の方にお運びいただきまして、誠にありがとうございます。また、皆様方には常日頃より教区、直属それぞれの立場にて、学生層の育成の上に、ご尽力をい

ただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

只今、表統領先生より、育成者としての心の置き処についてお話をいただきました。しっかりと消化し心に治めて、つとめて参りたいと思います。

今月十四日、二代真柱様の五十年祭が勤められました。

私たち担当者は、学生たちと向き合う中で、どう導けば良いかと常に悩むものです。私は学生の育成を考える際、私自身親々から、どのように育てられてきたかということ振り返り、参考にすることがあります。その私たちの親世代の方々は、皆、二代真柱様のもとで育った方でありませう。

そこで、五十年祭が勤められたこの時に、改めて二代真柱様のお志をひもとい

てみるということをごさせていただきます。そう申しましたが、原典の出版に始まり、教典・教祖伝の編纂など、教義の体系を整えてくださったこと、おぢばに四方正面鏡屋敷の形を表し親里の整備をしてくださったこと、学校や一れつ会を設立してくださったことなどや、「陽気ぐらし」へ向かう、日々の通り方の角目として「神一条の精神」「ひのきしんの態度」「一手一つの和」という三信条をお示しくございましたことなど、私が申すまでもなく既にご承知いただいていることばかり、挙げるときりがありません。

しかし一方で、両親から聞かせてもらった話を思い返し、また南右二棟における記念展などを拝見させていただいてますと、そこには教史には書かれていない、体制を整えてくださった御足跡とは

少し違った部分に、真柱様のお人柄や信仰を見聞きし、そしてその大きさを強く感じさせていただくことができます。

例えば展示の中に教祖殿のそばで草引きをされているお写真がありました。拝見すると羽織袴のお姿でなさっているのです。日付は四月十八日となっています。そこで勝手な想像をしますが、教祖は「二十六日は掃き掃除と拭き掃除だけすれば、おつとめ、他は何もする事要らんで」と仰つておられるけれども、「四月十八日だから教祖殿のそばで草引きなさったのかなあ」と思ってみたり、教祖といろいろお話しされているようにも拝見できたり、私の親もよく一緒に草引きをさせていただいたと聞かせて貰ったことも重ねて考えてみると、日々の中に「ひのきしんの態度」というものをまず御自らが実践され、周りの方々に移していかれたのだと感じることができます。

に改めて感じたところがあります。

学生の話を少しさせていただきました。

先日、ある学生から電話をもらいました。その子は学生会にも学校の勉強にも精一杯に力を注いでいる真面目な学生でありましたが、今年になって家族に見せられた事情がなかなか解決せず、どうしたら良いか分からなくなっているという相談でありました。彼自身、なんとか信仰的に心を治めたいと考えているようでしたが、治められるものでもなく、気持ちが悪く、パンク寸前という様子でありました。しばらく話を聞いている中に、結果的には自分で心を治める方向を見つけてくれたのですが、その時に、今の学生は真面目だという声をよく耳にし、感じてもしましたが、真面目に考えようとするが故に、重たい荷物を背負ってしまふ、そして心が折れてしまうことが多いのだらうと思いました。学生の中には、心が優しいが

また『みちのだい』には、以前にご婦人先生方が対談なさったものが掲載されているのですが、それを読みますと、理には非常に厳しい方であったけれども、こちらが尋ね求めるところには何処までもお優しく親身にご相談を受けてくださったというお話が載っていました。これはいろいろな先生方からもよく聞かせていただいた話であります。

そんな記事の中で、初めて知ったことがあります。私の祖母が思い出を語っているのですが、そこには、祖父が出直した時のことについて触れていました。祖父が出直し、みたまうつしの日に二代真柱様がいらしてくださったようです。そして、祖父のみたまに好物をお供え下さり、そばに居られた皆さんで炭坑節を賑やかに踊ってくださったとありました。それは異様な雰囲気であったと語られているのですが、そこには、戦後これから

故に悩みすぎてしまう子がいます。発散の仕方が分からずに心が折れてしまう子も増えています。また一方で、自分を上手に表現できずに人を傷つけ、孤立し、自分自身も傷ついてしまう。そんな子もいます。私たちは、そんな一人ひとりに対して、「いつでも相談にのってあげよう」という気持ちを彼らに分かるよう態度に示してあげる必要があります。

また、学生会の活動、特に行事を計画するにあたり彼らと相談をしていると「私たちの顔色を見ながら提案をしてきているなあ」、「これが本当にやりたい事なのかなあ」と疑問に思うことも少なくありません。先日もある教区の委員さんが、「学生が本当にやりたいことをしているように思えないんです」と打ち明けて来てくれました。私たち担当者が言いすぎるのがいけないのか、はたまた中々話が進まないが故に担当者が道をつけてあげ

という時期に夫を亡くした祖母の心情をお察しくださり、元気づけようと踊ってくださったに違いない、その二代真柱様の親心に、ただただ心を助けていただいた。そんな祖母の気持ちが誌面に溢れているのです。

二代真柱様は一方では原典や教理を、そして環境を整えて、私たちが正しく道を学び、歩むことができるように心を尽くしてくださいました。そして、もう一方では、後をついて行く教信者たちにも、どこまでも懐大きく温かく抱えて通ってくださいったお方なのだと思います。ご自身が、まず教祖のひながたを辿り、教祖のように温かい心で、その姿を私たちに映そうとしてくださっていたのだと、お姿を通して「人を育てる」ということをお教えくだされているのだと思います。育成者として見習わせていただかなくてはならないと、五十年祭のこの時

ているのが分からなくなっているということなのです。これも今の学生会活動にみられる一つの傾向であるように思います。

もちろん、昔ながらの活発な活動をしている学生会もたくさんあります。しかし、ルールを敷いてあげないと進まない学生会もあります。また、一年々々様子も変わっていきます。その時々々の学生に合わせるしかありません。その点、先生方には随分とご苦心いただいていることと思います。私たち担当者としてはどちらにでも対応できるような心をもって、その時その時を見極めてつとめること、表統領先生が仰せくださる相手の姿を確認しながら背中を見せていくことが大事になって参ります。

私たちは、真柱様から「先に立つ自分が育つ努力を意識してすることが肝心である」と聞かせていただいています。担

当者の態度として、まずは自らがひながたを辿る努力と温かい心をもって、そして「おたすけ」の気持ちで、陽気ぐらし世界へ向けての通るべき道を学生と共に歩ませていただきたいと思います。

話は変わりますが、後継者講習会は十二次まで約半分が終了しました。一万三百九十名の方に受講をいただきました。これからはその方々の事後丹精をしていかなければならない時期、であると同時に、まだ半分あるので、受講の声かけも続けていかなければいけない。そういう時期にあるわけなのですが、そんな中で最近、県内に住まう三人の方とこんな話をさせていただきました。

お一人は近所のおばさんです。「後継者講習会良いらしいわね」、「息子の嫁がこの前、行ってきたのやけど、良かったからって東京に住む私の娘を誘ってくれたの。今度行く決心をしてくれたのよ」

と。これまで、そのおばさんとお道の話をするのがなかったのでビックリしました。「良い講習会みたいね」と聞かれたので、「生活に生かしてもらえような内容を目指しました」と申しますと「そうみたいね。嫁が私たちみたいな者こそ、行くべきだって言ってたわ」。講習会の趣旨をよく理解してくださっているなど、とても嬉しく思いました。

また二人目。ある教会の奥様との会話です。奥様は内容は何もご存知ないのですが、「折角ご本部でこんな機会を作ってくださいるのだから、あんた絶対に行きなさい」と、離れて生活をする息子さんを半ば強制的に受講させてくれました。休みが取れないとブーブー言いながらも、おぢへ帰ってくれたのだそうです。余談ですが、一週間後にその息子さんが「北海道に来てまーす」とLINEを送ってきたそうです。「休みが取れないと言っ

てたくせに……」と呟いておられました。

そして三人目は教会長さんです。「何も知らんで悪いなあ、もう関係ない年やし担当でもないから申し訳ないけど、どんな事をしているかすら知らんわ。スマンね」。実はこの方の息子さんも対象者です。決して関係ない訳ではないはずなんです。こうなると、息子さんに声が掛かる確率は一気に減ってしまいます。この会長さんと話をしている、ある先生との会話が頭をよぎりました。講習会が始まってしばらくした頃、その先生が本部で知り合い(受講対象者)と出会ったので「いつ受講するの?」と聞いてみたところ、「僕、声掛かってないんです」と返事が返ってきたと。「お前、声が届いてないぞ」と私は先生から動員についてお叱りを受けたのです。三番目のような場合、同じような結果になる可能性も考えられます。このこともあったので、先ほ

どの会長さんに「息子さん、受講の方はどうですか」尋ねてみました。すると、「それが反応無いんだよね・・・仕事もあるし三日間は少し難しいかなあ」。案の定、声を掛けることを躊躇されているようでした。

この三人は皆さんお子さんが対象者で、同じように受講のお願いをさせていたいただいた方達でした。皆さん同じように、おぢへ、近くに住み、天理時報も読み、教会からの声も掛かりやすい環境におられる信仰熱心な方々です。そして、お子さんは皆さん仕事を持ち、離れて暮らしています。同じように思える条件ですが、結果は全て異なってきました。送り出すべき者の意識の違いが現れているように感じられてなりません。これ、どの家庭に信仰が伝わると思われますか? 三番目の方は情報が一番入っていそうな方、そして私が情報を流してくださるだろう

と思っていた方です。しかし、流れていると思っていたのは私だけで、本人まで届いていませんでした。行事を作ること重要ですが、どれだけプログラム作りに力を入れても、声を掛けていくことに同様の力を込めなければいけないことを痛感し反省しました。会長さんには改めてお願いをさせていただき、息子さんの連絡先も聞いて直接アタックしています。

と、これは後継者講習会の会話であります。学修のお誘いと非常に似ていると思いませんか? 一つ目、お姉ちゃんが行って良かったから、妹にも「行きなさい」と進めるパターン。二つ目、親御さんが「これだけは絶対に行きなさい」と申し込むパターン。三つ目、「良いらしいね。でも……」と他人事として捉えてしまっている。でも実は近くに受講対象者がいるというパターン。意識があるかないか、また、私たちが声を届けてい

るのか、いないのか。全く同じ展開であります。

学修へ行けば変わってくれる。「まなびば」は良い行事だ。私たちはそう思っけて行事を作り、進めますが、それをそう思ってくれる人が増えなければ、行事に声を掛けてくれる人も増えませんし、人も集める事もできません。つまり、先ずは若い人を育成する必要がありますのだということを広め続けていかなければ、今、人材育成をしていかななくては、道を将来へ繋げる事ができないんだという意識を、一人でも多くの方に持っていたくことをしなければいけないのだということだと思えます。育成の「重要性」という言葉を「危機感」と置き換えるべきだと思っていました。表統領先生は「励みとして」と仰ってくださいました。これを私たちの励み、やりがいとして勤めていきたいと思えます。

立教181年 学生担当委員会 行事計画

月	学生担当委員会行事
1	おせち学生ひのきしん隊 直前研修会(4) おせち学生ひのきしん隊(4~7) 例会(25) 学生生徒修養会 大学の部 スタッフ事前研修会(27~29) 学生生徒修養会 高校卒業生コース スタッフ事前研修会(27~28)
2	※Happist新規購読推進月間 例会(25) まなびば研修会(26~27)
3	学生生徒修養会 大学の部 スタッフ直前研修会(1~3) 学生生徒修養会 大学の部(3~9) 学生生徒修養会 高校卒業生コース スタッフ直前研修会(9~10) 学生生徒修養会 高校卒業生コース(10~12) 例会(25) 春の学生おぢばがえり(28)
4	例会(25)
5	直属担当者懇談会(25) 例会(25) 学生生徒修養会 高校の部 準備会議(26)
6	例会(25) 学生生徒修養会 高校の部 スタッフ事前研修会(27~28)
7	例会(25) こどもおぢばがえり学生ひのきしん隊(25~8/5)
8	学生生徒修養会 高校の部 スタッフ直前研修会(7~9) 学生生徒修養会 高校の部(9~15) 例会(25)
9	道の学生ひのきしんDAY 教区担当者懇談会(25) 例会(25)
10	例会(25)
11	学生担当委員会発足40周年記念学生担当者大会(25) 例会(25) 育成に役立つ研修会(27~28)
12	例会(25)

後継者講習会は来年三月に終わります。ここで「若い人を育成していこう」と声をかける機会を減らしてしまつては勿体ない。ここで育成に意識のある者から、その重要性を唱え続ける事をしていかなければ、その熱が冷めてしまいます。来年、学生担当委員会では真柱様のご臨席を賜り、学生担当委員会発足四十周年の学生担当者大会を開催させていただきます。この節目の年を迎えるにあたり、動き出した人材育成に向かう教内の熱を、私たちが引き続いて伝えていくことが、この先、教内が育成に対する意識を持ち続けることに繋がるはずです。そのためにも、まずこれから一年間、教区でも直属でも、形式にとらわれることなく、学生層育成者講習会の開催をお願いし、一人でも多くの方に育成者としての意識を持っていただけるよう、熱を伝える努力をしていきたいと思います。

それからもう一点。「親里で学ぼう」と提唱されている今、担当委員会としてできる「おぢば」での丹精は、学生生徒修養会しかありません。この学修への動員に力を注ぎたいと思っております。学修は心が変わる、また、心を養うきっかけの場として最高の機会。「おぢば」は育つ場であります。これは学生が学修を終え地元へ帰ってきた時の姿をご覧いただいて、先生方も十分に感じとってください。というハードルは確かに高いものです。しかし、その貴重な時間をお供えして受講してこそ、「おぢばの理」をいただくことができるのです。一週間かけて真剣に仲間と話すことで、自分を見つめ、育った家庭を見つめる事ができるのです。そして、「おぢば」で得た喜びをもって、その後の教区、直属での育成、丹精行事へと心を繋げていくことにも繋がります。

何とか、この学修へ多くの学生生徒に受講して貰い、自らの足で信仰の道を歩む入口に立って貰いたい。また親の通る道を肯定して後に続くきっかけとして貰いたい。そんな思いから、四十周年に向けて学修の動員に力を注ぐことにいたしました。育成の旬、育てる努力を持って親神様、教祖にお喜びいただきたいと思っております。活動方針は、来年一月に発表させていただきますが、育成の熱を伝えること、そして学修への動員。先生方には、どうかこの思いをお受け取りいただきまして、発足四十周年に向かうこれからの一年を共に勤めいただきますよう何卒お願いを申し上げ、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

立教181年 学生生徒修養会 高校卒業生コース

募集要項

- 【名 称】 立教181年 学生生徒修養会 高校卒業生コース
- 【主 催】 天理教教会本部
- 【事 務 局】 天理教学生担当委員会
- 【期 間】 平成30年3月10日(土)～12日(月) [2泊3日]
- 【受講対象】 ①平成29年度高等学校卒業予定者
 ※卒業後の進路は問いません。
 ※天理高等学校第Ⅰ部、第Ⅱ部、天理教校学園高等学校の卒業予定者も
 受講可能です。
 ②全期間を通して受講できる者。
- 【定 員】 400名
- 【受講御供】 3,000円
- 【内 容】 講話、ねりあい、グループワーク、お楽しみ行事など
- 【集合日時】 3月10日(土)午前9時～9時30分
- 【解散日時】 3月12日(月)午後2時頃
- 【申込方法】 以下の書類を整え、最上級教会長を経て、学生担当委員会事務局に申し込んで
 ください。
 ・受講願書 1通
 ・返信用封筒 1枚
 (保護者氏名、住所、郵便番号を記入し、82円切手を貼付ください。)
- 【申込期間】 平成29年11月25日(土)～平成30年1月31日(水)
 定員になり次第締め切らせていただきます。
 ※受講にあたっての詳細及び必要事項は、書面にて1月15日以降、随時保護者宛に郵送いたします。
 ※本人の意思を確認の上、お申し込みください。
 ※受講願書は学生担当委員会にあります。必要部数コピーしてご利用ください。
 Websiteでもダウンロードできます。 <http://tsa.tenrikyo.or.jp>

立教181年 学生生徒修養会 大学の部

募集要項

- ▽ 期 間 …… 平成30年3月3日(土)～3月9日(金)
- ▽ 受講対象 …… ①平成30年1月8日現在、大学・短期大学・大学院・専門学校
 高等専門学校(4年生以上)に在学している者。
 ②全期間を通して受講できる者。
- ▽ 募集人員 …… 700名(男子350名、女子350名)
- ▽ 内 容 …… 講義、グループワーク、にをいがけ、ひのきしん、修練(おつとめ勉強)など。
 期間中に別席を1席運べる日を設けます。
- ▽ 集 合 …… 3月3日 正午～12時30分に指定された宿舎に集合してください。
- ▽ 解 散 …… 3月9日 午前10時頃、各宿舎にて
- ▽ 受講御供 …… 8,000円 詰所(直属学生担当委員会)に納めてください。

申 込 み

- ▽ 申込方法 …… 下記の書類をととのえ、最上級教会長の署名・捺印をいただいた後、
 学生担当委員会事務局に申し込んでください。
 ・受講願書1通 ※特に学年の記入間違いのないようお願いいたします。
 ・返信用封筒1枚(郵便番号、住所、氏名を記入し、82円切手を貼付してください)
- ▽ 申込期間 …… 平成30年1月8日～2月25日
 (事務処理の関係上、願書はなるべく2月15日までに提出してください)
- ※ 受講にあたっての詳細及び必要事項は、書面にて2月15日以降、随時本人に郵送いたします。
 また、2月15日以降はTSA websiteでも詳細、必要事項が確認できますのでご利用ください。
- ※ 受講願書は学生担当委員会事務局、直属学生担当委員会、各教務支庁にあります。

立教百八十年 育成に役立つ研修会 開催報告

十一月二十七日から二十八日の二日間、本部第七・八・九母屋を会場に「育成に役立つ研修会」を開催し、スタッフを含め二百六名の方が受講しました。昨年は名称を以前の「HARP研修会」から「育成に役立つ研修会」へと変更しましたが、それに加えて今年には現場のニーズにあった環境で受講してもらうために、開催期間を二泊三日から一泊二日に改めました。受講者は、プログラム体験コース、プログラムサポートコース、プログラミングコースの三つに分かれて受講しました。

受講者には教区・直属・海外に加え、来春開催の「学生生徒修養会大学の部」「学生生徒修養会高校卒業生コース」で初めて係員を務める方も受講し、学生層育成プログラムについて理解が深まり、充実した研修会となりました。

■【コース説明&コース受講者感想】
 ■プログラム体験コース内容
 プログラム体験コースでは、学生層育成行

事で使用しているプログラムの有効性を体験するとともに、その心得を学ぶことをねらいとし、「プログラムについて」の講義を行いました。

【プログラム体験コース受講者感想】
 相手の話を聴くことが、お互いの心を開くことに繋がっていくのだと班のみんなの聴く姿勢を見て感じました。お互いの話を受け入れ、みんなで歩み寄り、すり合わせて一つの答えを出すこと、また正解のないものをも一つの意見にまとめることの難しさ、大切さを学びました。

■プログラムサポートコース内容
 プログラムサポートコースでは、各種育成行事のプログラムに役立つウォーミングアップや様々なエクササイズの習得をねらいとし、ウォーミングアップやエクササイズの体験及び解説に加え、「トレーナーの心得」についての講義を行いました。

【プログラムサポートコース受講者感想】
 今までは、ウォーミングアップやエクササイズの持つ意味やねらいというのをなんとなくでしか理解できていりませんでした。今回の研修会を通して、一つひとつのねらい、また実施する順番の意味を理解することができました。今後は、学担の委員としてしっかりと活用していきたいです。

■プログラミングコース内容
 プログラミングコースでは、各種育成行事の企画、立案、プログラム作成、運営について学び、行事開催の意識を高めることをねらいとし、プログラム構成の模擬実践及び解説に加え、「プログラミングについて」「学生層育成について」の講義を行いました。

【プログラミングコースの感想】
 行事を企画、立案するにあたり、まずはその行事を通して参加者にどんな姿になってもいいかというねらいを定めることが一番大切で、そのねらいを定める手順を覚えてもらい大変参考になりました。早速行事開催に活かしたいです。

関東ブロック 大学生の集い Work & Talk 2017 in 秦野 開催報告

十二月二日から三日にかけて、秦野大教会を会場に「関東ブロック大学生の集い Work & Talk 2017 in 秦野」が開催され、四十四名の学生が参加しました。今回は「学びの中で心を育てる」のテーマのもと、四つのコースに分かれてプログラムが進められました。

まず初めに、参加者、スタッフ全員で二日間を無事に通れるように、お願いごとめをさせていただき、各コースに分かれてグループタイムを行いました。各コースでは、参加者の緊張を解すために自己紹介やアイスブレイクを行い、その後、ひのきしんをしたり、八つのはこりについて考え、学んだりとお道に触れるプログラムを行いました。

二日目には、お道について話すコースや、にをいがけについて考え寸劇を行うコースなど、それぞれお道について考え、話し合った意見を述べ合いました。また、本部学生担当委員会 中山祥吉委員より講話があり、学

生達は各々メモを取るなどして真剣に耳を傾けていました。その後、各コースで講話ふりかえりを行い、最後には二日間をふりかえったの感想や寄せ書きを行いました。

閉講式では、二日間の様子をまとめたふりかえり映像を上映した後、二日間を無事に思い出した感謝の気持ちを込めて、全員でお礼ごとめを行い、秦野大教会を後にしました。

《参加者の感想》
 初めての参加で最初は緊張してたけど、プログラムを通して、打ち解けることができました。普段、学校の人とは絶対話さないようなことを話して、良い経験ができました。

「天理教の人はあったかいなあ」と改めて感じました。ありがとうございました!!
 (大学一年生 女子 初参加)

青空

私が直属学生担当委員会の委員長をつとめさせていただいた最後の年が「教祖百三十年祭 学生おぢばがえり大会」。例年、十名あまりの参加で、どのくらいに目標を定めるかを委員会で練り合った結果、学生会で今回の大会に向けて、どう取り組んでいくか、心定めも含めて練り合ってもらおうという事になりました。その結果、心定めは二十名に。当時の山陽学生会の委員長、副委員長は、天理大学生でしたので、毎月おぢばで学生会と学生担当委員会で、大会に向けて練り合いをしました。

大教会と詰所に模造紙を張り出し、参加する学生の名前を書き込んでいきました。まずはお互いのネットワークを駆使して声掛けを実施しました。模造紙はあつという間に埋まり、二十名に到達。大会まで、まだ時間はあります。学生会委員長から「心定めを三十名にして、もう少し頑張りたい」との連絡があり、「え、心定め達成出来たのに」と内心思いながら、大教会長様に相談。大教会長様は、そんな学生達の姿勢をととても喜んでくださいました。

大会当日、参加票を数えました。ちょうど三十枚。学生達の熱意と行動力に感動させられた大会でした。

山陽学生担当委員会 前委員長 伊藤俊一

まなびば研修会のご案内

平素は、学生層育成の上にご尽力いただき、誠にありがとうございます。
平成30年度の「まなびば」の開催に向けて、スタッフの育成を目的として、本研修会を開催いたします。まなびば担当者はもちろん、まなびばスタッフも是非ともご受講下さい。

記

- 【日 時】 立教181年2月26日（月）～27日（火）
集合・受付 … 2月26日 13：30
解散 … 2月27日 15：30頃
- 【会 場】 本部第12母屋
- 【対 象】 ・まなびば担当者
・教区学生担当委員長が推薦する者
(各教区まなびば担当者を除く3名まで受講可)
- 【内 容】 まなびばプログラムの体験、進め方説明
- 【受 講 費】 2,000円 ※まなびば担当者は免除
- 【携 行 品】 ハッピー、保険証、筆記用具、雨具、その他宿泊に必要なもの
※女性はズボン着用でご集合下さい。
- 【申し込み】 申込書に必要事項を記入の上、受講費を添えて学生担当委員会事務局にお申し込み下さい。
- 【申込締切】 立教181年2月15日（木）
- 【問い合わせ】 天理教学生担当委員会事務局
Tel 0743-63-2489（直通） 内線 5817

第五十五期天理教学生委員会委員長選挙 結果報告



十一月十八日、天理教敷島大教会信者詰所を会場に第五十五期天理教学生委員会選挙が行われ、運営委員会二十四名と傍聴者が集まりました。

はじめに、今回の立候補者である丸川陽一朗君（天理大学二回生）が、所信表明で第五十五期天理教学生会にける思いを演説し、「第五十五期は、『ありがとうのあふれる学生会』を目指します。感謝の言葉を意識することで、身の周りの有難いことに目を向け、その中で親神様の絶え間ない御守護にも気付いていきたいです。また親神様への感謝の気持ちを身の行いとして実践するため、『かしのもの・かりもの』の教理を学び、『おつとめ』『ひのきしん』をするこを推進します。そして、私の運命を変えてくれた学生会をより一層素晴らしい場所にするために、親神様、教祖に心を繋ぎ、仲間と手を取り合う中、委員長として誰よりも笑顔で喜び勇んだ姿で通ります」と述べ、その後、運営委員会による質疑応答が行われ、学生たちは立候補者の話に真剣に耳を傾けていました。投票の結果、丸川君が次期委員長に信任され、次期委員長を志として今後の天理教学生会の発展を誓い合いました。

人材育成の一助に! 『Happist』2月号は特別号です!!

2月は「Happist新規購読推進月間」です

学生担当委員会では、『Happist』2月号を特別号（新規購読推進号）として、教会長・布教所長および、教会・布教所在住者子弟の中学校3年生に、無料で配布致します。内容は、通常の特集や連載コーナーに加え、学生対象の諸行事を紹介したカラーグラビア「TSA PERFECT GUIDE」を掲載します。新高校生への育成の一助として、この特別号をご活用いただきますようお願い致します。



Happist2月号 予告

【特集】 憧れのお仕事

連載

- ・教理コーナー
お道の？を一緒に考えよう！ 田邊 大治（此花大教会長）
- ・信仰エッセー
明日の地図ひろげて 田中 有理（中河大教会長夫人）
- ・人生を彩る1冊をあなたに。
虹色のしおり 杉岡 千幸（天理教校学園高校教諭）
- ・漫画
ココロtravel ニシカワ ヨウコ

センターカラー

年間行事紹介

TSA PERFECT GUIDE



個人宅に直接「Happist」が届く個人購読も行っております。詳細は学生担当委員会事務局までお問い合わせください。

※内容は一部変更になる場合があります。